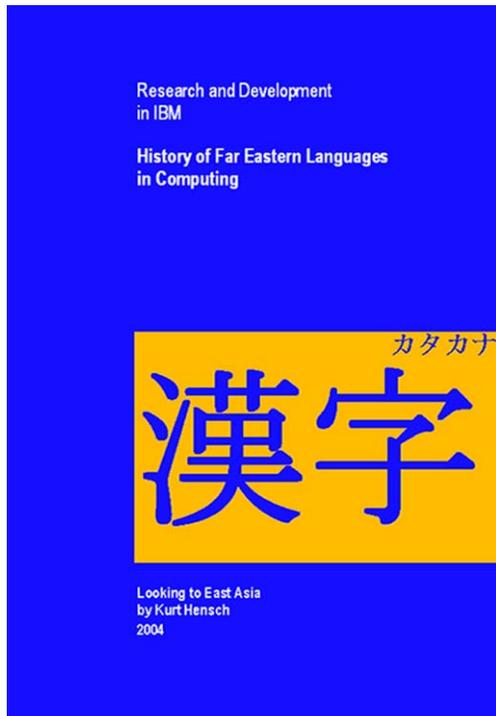


新刊書のご案内

「IT に極東の言語の使用を実現した苦難と栄光の IBM の足跡」、カート・ヘンシュ著



Contents

- Introduction
- Prologue
- Requirements, Phonetic Solutions in the 1960s
- Characters Used in Far Eastern Countries
- Technologies for Handling Characters
- Reduced Phonetic Character Set Implementation, 1960s
- Initial Efforts, Full Kanji Solution in Japan, Early 1970s
- First Japan Kanji Capability Realization, Early 1970s
- Newspaper Publishing Systems in Japan
- IBM Japan Taking the Lead, Achievements through 1990s
- East Asia Coded Character Set Standardization
- Major Changes through New Technologies
- Epilogue
- Acknowledgements
- List of Figures
- References

情報通信分野において、今日当たり前になっている東アジア地域の言語の取り扱いの自由度を達成するために、IBM 内でどのような取り組みがなされ、何が起きたかを本書は明らかにしています。初期のコンピュータでは、ラテン・アルファベットをベースする言語とは全く異種の文字セットを使う言語は扱えませんでした。東アジア市場を対象とするコンピュータに必須であった漢字などの取り扱いに、当時では想像を絶する開発とブレイクスルーが必要であった事実を本書は物語っています。カタカナのような音声記号の利用はほんの微々たる出発点でしたが、やがて極めて高度な解決策によって取って替わられました。今や最小のパソコンでもどの言語を使うことができます。

購入ご希望の方は kurt@kdd.net 宛てにEメールにて、ご氏名、郵便番号、住所をお知らせ下さい。著者から本を直接郵送させていただきますので、同封の請求書に指定された銀行口座に 3,950 円を振り込んで下さい。